



小平・生活者ネットワーク

ニュース NO. 121

2014年7月20日発行

1. 子どもにやさしいまちづくりを
2. 防災をテーマに活発な意見交換、金曜サロンでタッピングタッチ、今年も福島の子どもたちが来ました
3. 市議会議員の活動から
4. 認知症の高齢者を地域で見守る、スマートメーター知っていますか？、都議会セクハラやじを許すな！、福祉部会フォーラム



住宅街の公園では子どもの遊ぶ姿が見られなくなった。

一昨年、市政施行50周年として行われた子ども議会では、ボール遊びができる公園が欲しいという質問ができました。こうした声に

遊びをとおして子どもたちの世界が広がり、成長につながる

子どもは、遊びを通して、友だちとのケンカや仲直りを繰り返しながら人との関わりを学んでいきます。また、小さなケガの経験から次は失敗しないように気をつけるようになります。ところが都市化の進展とともに、子どもの育ちに思いきり遊べる場所が少なくなり、子どもの声がうるさいなど近隣からの苦情でボール遊びが禁止される公園も少なくありません。

子どもたちを取り巻く状況は、虐待や体罰、いじめなどが後をたたず、放射能汚染や子どもへの貧困、のびのび遊べる環境が失われていることなど、育ちに深刻な影響を及ぼす課題が山積しています。今年も子どもたちの権利条約批准から20年という節目の年にあたり、今こそ地域から子どもたちの権利に基づく施策を実現していく必要があります。

わたしたち大人は真摯に応える責任があります。

地域の人たちと子どもたちをつなぐ遊びの場を！

小平では、初のプレイパークが小川1丁目の区画整理地内にできました。ここでは、穴を掘ったり、泥んこ遊びをしたり、木に登ったり、どんな遊びも自由にできます。今の子どもたちは、屋内でゲームばかりしていると言われますが、それは幼い頃から身近に遊べる空間が少ないから。子どもたちに寄り添い目配せができるプレイリーダーがいれば、本来持っている自由な発想を發揮し、子どもは自ら遊びをつくり出せるはずです。

プレイパークがある西地区は白梅大学や武蔵野美術大学があり、地域の人たちが中心となつての多世

子どもたちの笑い声がひびくまちづくり！



代の居場所づくりが進んでいます。こうした地域の力も借りながら、プレイパークを子どもたちの笑い声が響く遊びの拠点となるよう、生活者ネットワークとしても応援していきたいと思えます。そして子どもを権利の主体と捉え参加の機会を保障しながら、今後も地域での子どもたちの居場所づくりを提案していきます。



子どもたちが自分で工夫して創りあげていくのか遊びの醍醐味